４０．鶴見　智氏（北九州工業高等専門学校　校長）

「先端技術を持つ世界的中小企業が活躍し、住みやすく、先進的教育が受けられるまちへ」

鶴見　智（つるみ　さとし）
群馬高専の物理専任教員に着任後、豊橋技術科学大学知識情報工学系の助手を経て、再び群馬高専に数学専任教員に着任。その後、同高専電子情報工学科の准教授、カナダ国ウォータールー大学の数学学部応用数学科客員准教授、群馬高専教授に歴任し、国立高専機構本部を経て、2022 年に北九州高専の校長に着任（現職）。

「産学連携に強みがある」

本校は昭和 40 年創立ですが昨年度に高専制度創設 60 周年を迎えました。北九州市が政令指定都市になった際に、それに見合うような工業の教育機関設置の要望を受け、設置されたという背景があり、これまで市と足並みを揃えてきました。

北九州市は産学連携に強みがあります。市も中小企業をはじめとした産業界も積極的で、九州工業大学をはじめ「ものづくりのまち」をバックグラウンドとした高等教育機関もあります。これまで他都市も経験してきましたが、本当の意味で産学連携ができている都市はあまりありません。その点、北九州市は北九州産業学術推進機構（FAIS）とともに、形だけではなく密に連携を行っていると感じています。このようなパターンは非常に少ないのではないでしょうか。

「様々な産業のバランスも良い」

工業以外にも、食が豊かであることなど様々な産業のバランスが取れています。農業では若松キャベツなど新鮮な旬の野菜が安く、数多くあります。漁業も豊かな漁場を背景に、魚が新鮮で安い。また、商業では小倉が城下町ということから活気があり、祭り（祇園太鼓など）も盛んです。

観光業では門司を中心に国際的観光地になっており、外国の方も多く訪れ、外国語が飛び交っています。

「ロボットや半導体、DX 人材を育成」

安川電機をはじめロボット関連企業が市内に立地していることが大きいのではないでしょうか。ロボット分野の人材育成については高専独自の「COMPASS 5.0」という事業があり、本校は東京高専とともにロボット分野の拠点校になっています。また、本校教授を中心にエグゼクティブビジネススクールで企業人のリスキリングも行っています。

加えて、半導体関連企業における技術者不足が懸念される中、本校では半導体の仕組みの理解に重点を置き、どのようにそれがロボットに生かされているのかという形でロボット分野の学生にも半導体に触れるようにしています。このほか、デジタル技術を使いこなせる人材を育てるというところにも注力しています。

「グローバル人材の育成に適したまち」

北九州市に半導体関連企業は 90 社以上あるのは強みであり、売りにしても良いのではないでしょうか。技術者不足は今後も続くので、人材育成のために連携することが必要です。

今後は TSMC の熊本進出により、韓国・中国・台湾など近隣国からも需要が増えると考えられます。北九州市はグローバル教育に適したまちであり、多様な価値観や知識を習得する機会

があります。本校もグローバルエンジニア育成の拠点校として、外国人留学生も受け入れています。そのような多様な人材に接触する場として積極的に活用するべきではないでしょうか。

「中小企業の技術がキーになる」

人口減少や経済界の停滞など不安感が広がっていますが、前向きな思考に転換すべきです。

キーとなるのは「中小企業」です。大企業はもちろんですが、中小企業の層が厚い点に注目すべきです。「実は持っているけれどあまり知られていない先端技術」をとがらせることを産学連携で実現することが重要です。その売り込みについては市が、それを支える本校のような教育機関が、人材育成にコミットすることが重要だと考えます。

また、本校含め大学や他の企業の方も一致団結してリスキリングに関わっていくことが必要でしょう。

「アジア圏の IT 企業の誘致」

アジア、特に台湾のＩＴ企業はレベルが高いので、それを誘致してはどうでしょうか。熊本周辺も TSMC 効果で盛り上がっていますが、北九州市にもそのポテンシャルはあり、引き入れる下地があると思います。工場が無理でも設計部門、開発部門等の川上機能を連れてくるという方法もあると思います。

「情報系のスタートアップの育成を」

情報分野のスタートアップを育成することも大切です。北九州市に製造業はありますが、情報産業が弱い印象があります。情報系企業は大都市にある必要はなく、自然豊かな環境を準備できることも北九州市の強みだと思います。

単にスタートアップというよりも、手厚く情報分野に絞って、例えば、本校の学生が起業して、100 人くらいの社員を雇ってくれるようになると良いですよね。他地域の高専卒業生でも実例があり、決して夢の話ではありません。既存企業での雇用には限界がありますが、そのような人が北九州市に留まり、雇用を創出する。こういった人材を本校から輩出したいと考えています。

「見やすい情報の発信を」

住む人にとっても住みたいと思える環境を整えることが重要です。北九州市では様々な補助や手当てが整えられており、医療関係についても恵まれていると思います。しかしそれらの支援の存在が見えづらいのかもしれません。若い世代などにも、その情報がもっと見えるようにすると良いのではないでしょうか。

「ここでしか学べないような教育環境を」

子育て中の親や子どもたちに対するメッセージも重要です。北九州市でないと受けられない特徴ある教育をして、「ここで学びたい」という環境をつくってほしいと思います。

今、STEAM 教育の重要性が声高に叫ばれていますが、高校からでは遅く、小学校から一緒に取り組むことで教育機会を増やしていき、その中から理工系人材を育てていくことが重要です。その過程に中小企業にも入ってもらい、一緒に子どもを育てる仕組みをつくりたいと考えています。我々は教育機関なので、「ここでしかできない教育」を柱にしたいと考えています。本校はロボットを柱にしていますが、高性能の AI サーバーを導入して、今後生成 AI の活用を新たな柱にしていきたいと考えています。

子育てが安心してできるとともに、先進的な教育が受けられると思ってもらえる環境を市にも整えていただきたいと思います。

人材をしっかりと育て、北九州市に定着するよう、また、外に出ても呼び戻せるような魅力を教育の中で伝えることが重要だと思います。